

森づくり論研究室 ~森林の全体像を考える~

エコサイエンスコース 担当教員 吉村謙一准教授

樹木が成長、枯死する仕組みを主に生理・生態学的視点で注目することにより、環境の変化に対して森林がどのような応答を示すのかを明らかにすることを目標とします。森林を歩いてみて感じた「気づき」や自分で思ったことをもとに、自分で仮説を立てて研究をおこないます。

気候変動



気候変動が森林生態系におよぼす影響を生理・生態の面から調べています。
左・融雪時期が早期化と森林の関係を知るための雪かき実験
右・小笠原諸島の森林で近年、乾燥による枯死が目立つ



生理



樹木の実生を育てて、環境ストレスを与えたり、病原菌を接種することで、どのようなメカニズムで樹木が枯れるのか明らかにします。

生態



多雪環境では独特の森林構造がみられます。どのような仕組みでこのような森林構造や多様性が形成・維持されるのかを明らかにします。

樹木の生理プロセスと森林生態系をつなぐ

植生管理



樹木の生理・生態プロセスを応用して、駆除を含めた外来種の管理や踏圧環境下での芝生の育成といったテーマを調べています

生態系機能



樹木だけでなく菌類などの生物も森林生態系の中で大きな役割を果たしています。それらも含めて森林生態系全体の機能についても考えます。



詳しくは「森づくり論研究室」のHPから！

<https://forestcreateky.wixsite.com/forestdesign>